

ミルクイ *Tresus keenae* (Kuroda et Habe)

【選定理由】

本種は内湾の浅海域（潮下帯）の砂泥底に生息する大型の二枚貝で、内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底に太い水管を出してすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種はミルクイと呼ばれ高級すしだねとして三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺では現在も漁業対象種となっている。ただし、1990年までの20年間で資源量が激減し、それまでほとんど利用されなかったシロミル（キヌマトイガイ科の標準和名ナミガイ *Panopea japonica* (A. Adams)) を代用として採捕するようになった（日間賀島漁協聞き取り調査）。引き続き県内では底引き網、潜水で漁獲されているが、将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



【形態】

殻長 15 cm を越える大型種。楕円形で殻は厚く膨らむ。後端は幅が広く裁断状で殻の間は広く開く。殻は白色だが殻皮は黒褐色で厚い。水管は長大で（図上）、主に食用に供される部位である。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺の潮下帯に分布し、漁業対象種になっているが、個体数は減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、国内では北海道南部～九州まで分布する（山下・木村, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館（2001）では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10-12.
山下博由・木村昭一, 2012. ミルクイ, p. 144. in: 日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

（木村昭一）